

氏名	わだ つみき 和田 積希
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博乙第208号
学位授与の日付	令和3年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	明治・大正期における新知識の受容—京都高等工芸学校における教材としてのガラススライド(幻燈)をめぐって
審査委員	(主査)教授 並木誠士 教授 平芳幸浩 教授 池側隆之 講師 井戸美里

論文内容の要旨

本論文は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵する約 1,900 枚のガラススライドの分析を通して、明治・大正期における高等教育機関での教材としてのガラススライドの位置づけを考察するもので、第1章から第6章までで構成されている。

第1章では、明治35年に開校した京都高等工芸学校が京都の近代化に果たした役割を示したうえで、同校が初期に教材として収集した資料を概観し、そこにおける実物資料とガラススライドを含む複製資料との位置を明確にしている。

第2章では、国内外の高等教育機関におけるガラススライドの収蔵状況に言及しつつ、京都高等工芸学校が開校時から1920年代にかけて収集したガラススライドについて詳細に内容の分析をおこなっている。また、当時のカリキュラムおよび担当教員とガラススライドの関係を明確に示し、さらに、京都高等工芸学校開校前にヨーロッパを視察した初代校長中澤岩太が果たした役割を明確にしている。

第3章は本論の中心的な章であり、おもに美術・デザイン資料として収集されたガラススライドをとりあげている。19世紀末より積極的にガラススライドを使用していたドイツでの現地調査を踏まえて、とくにフランツ・シュテットナー (Franz Stuedtner, 1870-1946) の学術用写真研究所製のガラススライドの制作・販売・流通の実態を明らかにするとともに、京都高等工芸学校で収集されたガラススライドの内容と同校の図案教育の関係を検証している。これにより、アーヌヌーヴォー全盛の当時のヨーロッパでの最新のデザイン状況を教育の現場に示すためにガラススライドが活用されていた様相が明らかになった。従来、美術工芸資料館の収蔵資料は実物としての教材という位置づけがもっぱらであったが、ここで、複製資料による同時代状況の摂取をはじめて明らかにしている。

第4章では、おもに染織産業資料として収集されたスライドをとりあげ、その意義と同校機織科の教育との関係を検証している。従来、美術工芸資料館の収蔵資料は、図案科の資料という暗黙の了解があったが、今回の調査により色染科、機織科での教育用でもあったことを指摘している。

第5章では、国内でガラススライドを現在でも保管している奈良女子大学(奈良女子高等師範学校)が開校初期に収集したガラススライドの分析をおこない、同校の教育体制およびカリキュ

ラムとの関係を検証し、京都高等工芸学校の場合との比較検討をおこなっている。

第6章では、海外の事例および研究状況に言及しながら、明治・大正期の高等教育機関におけるガラススライドの意義について考察している。そして、最後に、現在、全世界的に高まっているガラススライド研究のなかに京都高等工芸学校所蔵資料を位置づけて、さらに今後の展望を示している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、日本の近代化において重要な位置を占めていた学術資料であるガラススライドの位置をはじめて明らかにした論文である。学術資料としてのガラススライドの調査・研究は、世界的に見ても今世紀になって始まったもので、申請者はこの分野における日本での数少ない研究者として、グローバルなネットワークのなかでドイツ、アメリカ、台湾などで調査をおこなってきた。本論文の意義は大きく二点ある。

第1に、上記のような世界的な関心のなかで、日本の近代化においてガラススライドが果たした役割を明確にしている点で、国内諸機関へアンケートを実施するという基礎的な段階から丁寧に作業をしており、本学だけではなく、奈良女子大学が所蔵するガラススライドの意義も明確に示している。

第2点は、京都高等工芸学校初期の教育体制のなかでガラススライドが果たした役割を明確にした点であり、なかでも、開校時に、同時代のヨーロッパの最新のデザイン状況を講じるためにガラススライドが使用されたことを示し、カリキュラム、担当教員とのかかわりも明らかにしている。

申請者は、美術工芸資料館が所蔵する1900枚を超えるガラススライドを丹念に分析し、被写体および購入時の様相を明らかにしている。この緻密な基礎調査が本論の基礎になっている。

なお、申請者は、本課題に関連して、科学研究費若手研究、DNP文化振興財団研究助成を受けており、この点からも、本研究が注目をされていることがわかる。本論文は以下の査読付き論文3本、および査読付きの参考論文1本、査読無しの参考論文1本からなる（いずれも申請者の単著）。

査読付き論文

◇フランツ・シュテットナー博士作成ガラススライドの意義について—京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵資料を中心に—（意匠学会編『デザイン理論』68号、63頁～76頁、2016）

◇奈良女子高等師範学校におけるガラススライド（幻燈）の利用と意義—（奈良女子大学史学会編『寧楽史苑』65号、23頁～37頁、2020）

◇教材としてのガラススライド—京都高等工芸学校初期における海外デザインの受容—（意匠学会編『デザイン理論』76号、45頁～64頁、2020）

査読付き参考論文

◇新出の「野分文庫」について—浅井忠の図案とその作品化をめぐって（東京国立博物館研究誌『MUSEUM』650号、27-43頁、2014）

査読無し参考論文

◇京都高等工芸学校における初期教材—明治後期における視覚資料について—（公益財団法人中信美術奨励基金『美術京都』50、21頁～71頁、2019）